

---

# サウンドクリヒティカ

下瀬楽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

サウンドクリヒティカ

### 【コード】

N1983C

### 【作者名】

下瀬楽

### 【あらすじ】

戦争における少女と少女の物語。彼らは何を選んで、何を捨てたのか。

僕は君のことが嫌いだ。

「僕は君のことが嫌いなんだ」

「ありがとう」とにこりと微笑みながら神崎麻也は言った。

通常の戦場に見せる、感情を表す事の無い声とは違い、小さくて穏やかな言葉だった。

「僕に無いものを君が持っているから」

麻也は穏やかな瞳を僕に向けて問う。

「そう。貴方も私が所有していないものを持っているの？」

その通りだ。僕は彼女に理想を求めた。

それ故に、歪んだ鏡はもう見たく無い。

麻也は緩やかに流れる白と銀が交ざりあつた髪をかきあげ、落下する太陽を見上げながら囁いた。

「私を殺してくれるの？」

まるで太陽と天からの祝福を今まさに受けているかのに、歓喜の声を上げた。

「僕には自分を殺す事など出来ない！」

ぬるりと僕の方に顔引き寄せると駄々をこねる子供をあやす様に、

「だったら私と一つにならない？互いの境界を無くし、一つの個体として生まれ変わる」先ほどまでの歓喜の波は彼女から遠ざかりただ純粋な音だけが発せられた。「いやだ！」

彼女と一つになんてなりたくない。

「私と出合わなければ良かったね。」

じゃあまた後でと言いつつ、麻也は立ち去ろうとした。

「風道君には何も言わないから。」

だから、僕は君のことが嫌いだ。

「僕は君のことが嫌いなんだ」

「ありがとう」とにこりと微笑みながら神崎麻也は言った。

通常の戦場に見せる、感情を表す事の無い声とは違い、小さくて穏やかな言葉だった。

「僕に無いものを君が持っているから」  
麻也は穏やかな瞳を僕に向けて問う。

「そう。貴方も私が所有していないものを持っているの？」

その通りだ。僕は彼女に理想を求めた。

それ故に、歪んだ鏡はもう見たく無い。

麻也は緩やかに流れる白と銀が交ざりあつた髪をかきあげ、落下する太陽を見上げながら囁いた。

「私を殺してくれるの？」

まるで太陽と天からの祝福を今まさに受けているかのに、歓喜の声を上げた。

「僕には自分を殺す事など出来ない！」

ぬるりと僕の方に顔引き寄せると駄々をこねる子供をあやす様に、  
「だったら私と一つにならない？互いの境界を無くし、一つの個体として生まれ変わる」先ほどまでの歓喜の波は彼女から遠ざかりただ純粋な音だけが発せられた。「いやだ！」

彼女と一つになんてなりたくない。

「私と出合わなければ良かったね。」

じゃあまた後でと言い残し、麻也は立ち去ろうとした。

「風道君には何も言わないから。」

全てを見透かし、美しい笑みを浮かべて僕を殺す。

笑みには笑みを。

彼女に対する毒が僕の頭を焼焦がす。

「言えば？神崎の好きにすればいい。」

背筋が冷たくなり、声が凍える。

「やっぱり風道君には、言わないわ。だってその方が楽しいみたい。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1983c/>

---

サウンドクリヒティカ

2010年10月26日05時18分発行